

津波対策の早期整備に向けプレキャスト型防潮堤を新開発

～『ハイブリッド防潮堤』岩手県で初採用～

現在、東日本大震災の被災地復興において、2015年度末までの5年間で「集中復興期間」とすることが政策の基本方針とされています。しかし、現地では同時に多数の工事が急ピッチで進んでいるため、資機材や人手が不足して、具体的に工事着手に移せない等の問題も生じています。

これに対する解決策として、JFEエンジニアリング株式会社（社長：岸本純幸、本社：東京都千代田区）は、極めて短期間で完成できる「ハイブリッド防潮堤」を開発し、このたび岩手県山田漁港復旧工事において初めて採用されたのでお知らせします。

この「ハイブリッド防潮堤」は、現地で基礎鋼管杭を施工している期間に、堤体ブロックを工場で製作（プレキャスト）し、鋼管杭打設後わずか数日間で、連結一体化します。

これにより、従来の鋼管杭打設後に現場でコンクリート施工する工法では約2年の工期を要していましたが※¹、約半分の工期で防潮堤を完成します。また被災地においては、設置場所における大量の資機材や人手の調達が不要となるため他の復旧工事の進捗を妨げることはありません。

なお、プレキャストされる堤体ブロックは、鋼とコンクリートのハイブリッド構造のため、従来品と同等の強度を保ちながら壁厚を薄くできるので、設置場所の自由度が高まります。加えて輸送条件に合わせて分割すること可能です。

当社は、この製品が初採用となった岩手県山田漁港の防潮堤復旧工事において堤体ブロック製作・輸送を受注しました※²。山田漁港では震災により防潮堤が一部流出するなど損傷しており、国の指針に基づく「粘り強い」構造の防潮堤に復旧します。この計画において、工期の半減や資機材や人手の現地調達的大幅削減が高く評価されました。

当社は今後も、被災地域だけでなく、全国の沿岸部でも津波対策のインフラ整備に対し、「ハイブリッド防潮堤」などの沿岸商品※³のソリューションを進めてまいります。

※1 防潮堤200m整備した場合の試算による

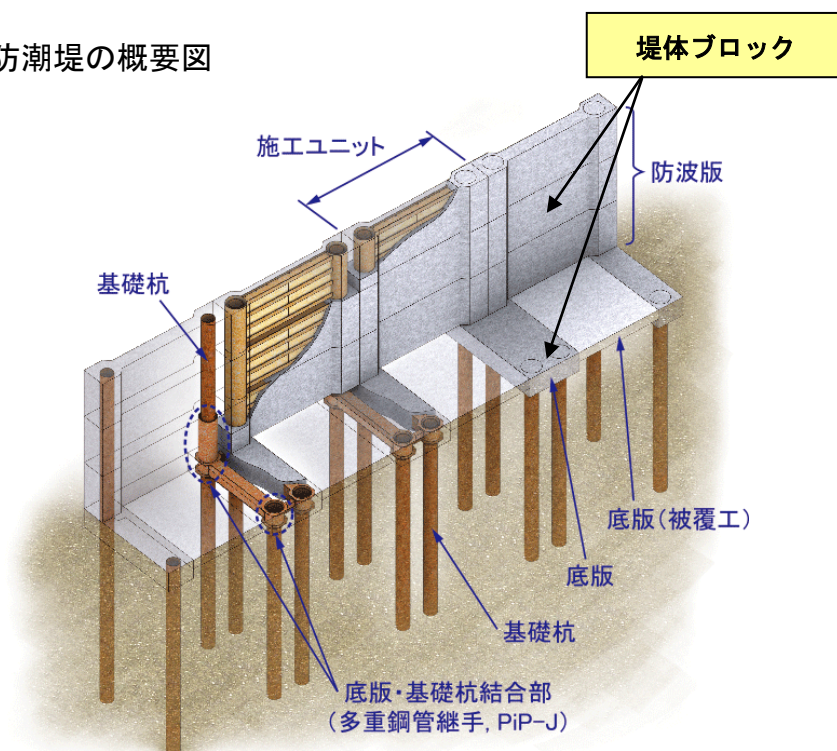
※2 受注工事概要

1. 発注者 : 岩手県
2. 工事名 : 山田漁港海岸災害復旧(23 災県第 680 号防潮堤その1)工事
3. 工事場所 : 岩手県下閉伊郡山田町 山田漁港
4. 工事内容 : 防潮堤築造工 延長 200m
5. 元請会社 : 長沢産業(株)(地元土木工事業)
 - 当社受注範囲 : 堤体ブロックの製作・輸送
 - 鋼管杭施工、ブロック設置は、元請会社にて実施
6. 全体工期 : 2013 年 3 月 7 日 ~ 2014 年 1 月 31 日
※当社製作工期 : 2013 年 3 月 25 日~2013 年 11 月 15 日

※3 JFEエンジの沿岸プレキャスト型商品

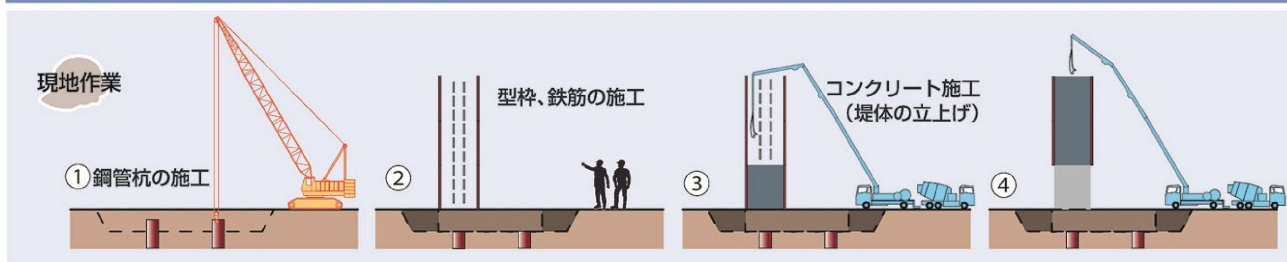
海中に設置する防波堤や岸壁などに対応するハイブリッドケーソンを開発し豊富な実績を有する。今回は陸上部に設置される防潮堤をプレキャスト化した。この他に耐震栈橋などに使われるジャケツも商品としてラインナップ。

■ハイブリッド防潮堤の概要図



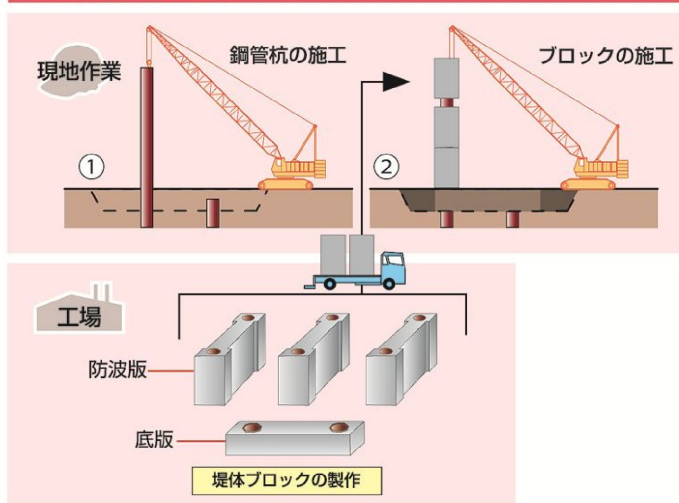
■ ハイブリッド防潮堤の施工手順（従来工法との比較）

従来工法（コンクリートによる現地施工）



工期を半減！

ハイブリッド防潮堤



以上

本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

J F Eエンジニアリング株式会社 総務部広報室